



リスクマネージャー!

医療の安全に取り組む全国のリスクマネージャー様にインタビュー

No.85 NTT東日本関東病院 医療安全管理室 専任医療安全管理者 中尾正寿様



【病院外観】



【中尾様】

■ 病院の概要

1951年 12月	関東逓信病院開設
1986年 6月	保険医療機関の指定を受け、一般に開放
1994年 11月	総合医療情報システム (KHIS) の入院業務運用開始
1995年 7月	総合医療情報システム (KHIS) の全科外来業務運用開始
1999年 4月	東京都指定二次救急医療機関の指定
	7月 NTT再編成の実施に伴い、病院名をNTT東日本関東病院と改称
2000年 10月	新病院完成
2002年 10月	病院機能評価認定
2011年 3月	JCI (Joint Commission International) 認定
2014年 4月	DPC対象病院
2015年 12月	内視鏡がん手術支援ロボット (ダヴィンチ) 導入

■ 病院理念・基本方針

(理念)

私たちはNTT東日本の社会的貢献の象徴として、医療の提供を通して病院を利用される全ての人々、そして病院で働く全ての人々の幸せに尽くします。

(基本方針)

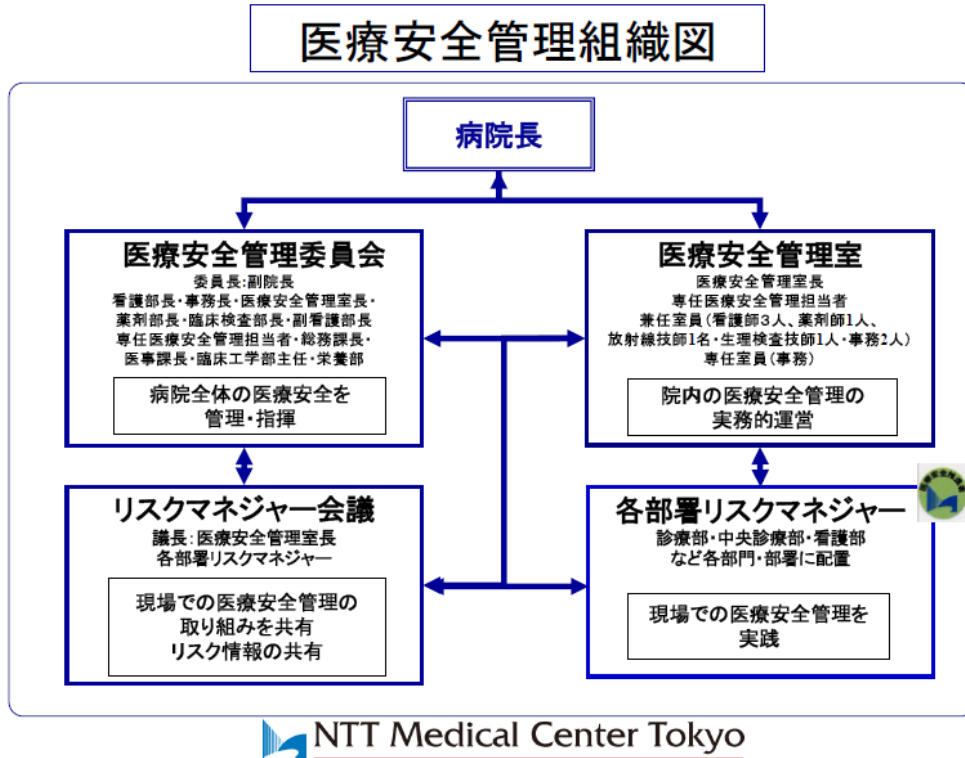
1. 患者の権利と人格の尊重
2. 世界的視野に立った最高の医療の提供
3. チーム医療の推進
4. 適切なリスク管理と安全な医療の提供
5. 地域医療の発展と連携の推進
6. ITの医療への活用と社会への還元

1. 組織体制について

医療安全に関する組織体制について教えてください。

病院全体の医療安全を管理・指導する「医療安全管理委員会」、各部署のリスクマネージャーが構成員となり安全な医療について検討を行う「リスクマネージャー会議」、実務的な事を取り仕切る「医療安全管理室」からなっています。

私は医療安全管理室で医療安全に関することだけに従事しています。



中尾様の主な業務内容を、院内各部署との連携を含めて教えてください。

私の業務は主に以下の内容になります。

1: 院内のルールづくり

医療を安全に行うためには、当たり前なのが当たり前に行われるように、スタッフ全員で業務を統一化・標準化することが重要です。ベテランと新人に上手下手の差はあっても、やり方は同じでなければ困ります。このため、病院の業務には殆ど全てに作業手順を示すマニュアルが用意されています。いわゆるルールです。しかし、医学は日進月歩であり、医療にも日々新しい技術や治療法が登場します。また、自分たちでは十分と思っていた業務手順が他施設ではもっと効率的かつ安全に行われていることを知ることもあります。ルールは一度決めればよいというものではなく、現状に即しているか、本当に守られているか、時代遅れになっていないかなど、色々な視点で見直すことが大切です。

管理する視点からだけで作ったルールは機能しません。そのためには現場の声が必要です。インシデント報告や現場の巡回などで現場スタッフからの生の声が届きます。医療安全管理室は各現場と密接に連絡をとりながら、院内のルールを管理しています。

2: 院内各スタッフへの働きかけ

どんなにルールを作っても守られなければ意味がありません。このため、医療安全管理室は病院の全スタッフに対し、ルールを理解し遵守して業務を行うための指導も行っています。

最近は多くの企業で、法例遵守(コンプライアンス)とか企業統治(ガバナンス)ということが言われるようになりました。病院は多くの方の生命をあずかっているだけでなく、一般の企業に比して職員の入れ替わりも多いだけに、医療安全管理室は、日々、その責任をかみしめています。

3:事故や疑問への対応

病院で事故が起きては困ります。そのために医療安全管理室が中心となって病院は日夜努力しているつもりですが、万が一のことも想定しておかなければなりません。事故には至らなくても、医療内容に疑問を抱かれることがあるかも知れません。そのような時、まず、ご説明させて頂くのは主治医ですが、病院としての対応が必要になる場合もあると思われます。事情を調べ、病院を代表して対応させていただくのも医療安全管理室の仕事です。

当院は事実経過や原因の調査に全力を尽くします。また、その結果については患者さんやご家族に誠意を持ってお話ししていく考えです。この事は当院が定める「患者の権利」にも明記してあります。

2. 転倒・転落事例情報の収集と対策について

事例情報の収集から防止策実施までの仕組みを教えてください。

転倒・転落インシデントが発生した場合は発見者が速やかに電子システムで報告することになっています。

アクシデントに関しては、電話で速やかに上長と医療安全管理室（私）に直接連絡が入ることになっています。

全ての報告内容を蓄積し分析すると、その情報の中から共通のパターンが見えてくることもありますので、患者様の状況に合わせて、未然防止策を施すように努めています。

近年の事例発生件数はどのように推移していますか？またその原因はどのようにお考えですか？

以前は入院における転倒の報告件数が年間 500 件を超えることがありましたが、直近の 3 年間では約 400 件まで減少しています。

転倒・転落事例の減少が顕著に表れていますが、これは、やみくもに対策を施すのではなく、過去の事例をしっかりと分析して、対象者に合わせた対策を施しているからだと考えています。

事故防止の対策や工夫を教えてください。

入院時には、ふらつきや注意力が落ちるような作用のある睡眠導入剤を服薬しているのであれば、個人に合わせて担当医が処方薬を変更することもあります。また患者様の足元が滑らない様に、スリッパではなく、かかとのある履物に変更するように誘導しています。この様な工夫で転倒事故の防止・減少に確実な成果を示しています。

また外来の待合場所の大型スクリーンに、転倒・転落に関する安全情報を流して、患者様自身やご家族でも入院までに様々な対策や準備をして頂けるように働きかけを行っています。

中尾様が管理者として特に注力されている取り組みがあれば教えてください。

JCI（国際的な医療施設評価認証）が掲げている「6つの国際患者安全目標」は常に心がけています。（患者確認、良好なコミュニケーション、薬剤の安全投与、手術の安全な実施、感染対策、転倒・転落対策）

その中でも、「転倒・転落対策」で受傷リスクの低減を最重要項目としています。単に事象件数をまとめるだけではなく、入院・外来別に発生率を指数化して、3 か月毎に発生動向のモニタリングを行うとともに、部署、時間、場面等さまざまな要因を取り上げて分析し、職員にフィードバックをして、取り組みの成果が見えるように心がけています。

また、転倒・転落事故が発生した場合には、担当者からの報告を受けて状況確認から対策検討までを行うだけではなく、リスクマネージャー会議においても、その報告内容を基に参加者全員が当事者意識をもって対策について、もう一度考えて、課題解決に向けてディスカッションを行うようにしています。

私はこのように当事者意識をもって、多職種で学びあい、ディスカッションが出来る文化を院内に根付かせたいと思って活動しています。

3. 医療安全に関する研修および他院との連携について

医療安全に関連した研修の年間計画はありますか？また研修開催のテーマがあれば教えてください。

医療安全制度で決まっている年 2 回の研修開催を計画しています。

医療安全の観点からチーム力向上の必要性を感じており、「Team STEPPS」の考えを基に、また同時に職員が多職種横断的な活動が出来る様に、研修内容を考えています。

地域の病院様と医療安全に関する連携はありますか？ある場合は、目的・内容などを教えてください。

医療安全面で当院からアクションを起こす連携はありませんが、他院から JCI（国際的な医療施設評価認証）の関連で情報を求められる場合がありますので、その内容に応えたり、研修をしたりしています。難しい質問や課題には他の JCI 認証病院と連携を図る場合もあります。

4. 離床センサーについて

【導入センサーの種類と購入履歴】

コールマット・徘徊コールⅢ×12 コールマット・コードレス×15 ベッドコール・ケーブルタイプ×1

離床センサーを使用する場合の基準やルールの様なものはありますか？

現在センサー選択のチャートを作成し試行中です。看護師の誰が選択しても標準化できるようにしたいと思っていますが、まだまだ未完成の状態で、今後も実際にチャートとセンサーを使用しながら内容の充実を図りたいと思っています。

センサー使用（導入）の効果事例や今後の導入展望があれば教えてください。

現在使用中のコードレスのセンサーはベッドサイドの設置のみならず、部屋の入口等にも使用出来るので離床だけではなく、離室や離棟対策としても効果があり、現場スタッフからも希望が出ていますので、計画的な追加導入を検討中です

当院での転倒事例数は、ベッドサイド・病室・トイレの順番で発生しています。特にベッドサイドより複雑な動きをと言われるトイレでは、受傷率が高く対策に困っていました。

そこで先日「トイレコール」のデモ機を試用したところ、睡眠導入剤の変更や環境整備の対策との相乗効果で、トイレでの転倒事例が減少しました。トイレは改修の計画もありますが、「トイレコール」の導入も積極的に検討しています。

さらに、センサーを故意に避けて活動する患者様用に、「超音波・赤外線コール」の導入も検討しています。

5. メーカーへのご要望について

弊社の商品や顧客サービスについてご要望、ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

製品使用後のメンテナンスや、改めて使用する際の動作確認などに難しさや課題を感じています。ベッドメーカーにメンテナンス契約がある様に、離床センサーもメンテナンスに関してサポートがあれば良いと思います。

また、病院全体で管理している他院の仕組みがあれば教えて欲しいです。

転倒の解決策として患者様の一番身近にあるテクノスジャパンの製品で、様々な情報集積（特定者の夜間行動把握や体重測定などを記録する機能等）ができないか…今後の製品への想像を膨らませています。

6. 何か一言お願いいたします。

病院様の PR や、個人のポリシーなどをお聞かせ下さい。

ポリシーではないのですが、様々な人とコミュニケーションを図り、周りの方と一緒に物事を考えて経験や知識を深めたいと思っています。今後も医療安全管理者として皆様のお役に立ちたいと思っています。